

マイナンバーカードとマイナ保険証に対する患者さんの認識と現状

埼玉葛支部 田口敦史



要旨 2024年秋からマイナンバーカードと健康保険証の一体化が始まる背景で、124名の患者に対し調査を通じて、72.5%の患者がマイナンバーカードを取得しており、そのうち53.4%が保険証と紐づけていることが明らかになった。一方で、20.3%は紐づけていない。患者の見解では、マイナポイントの利用や個人情報保護への懸念、情報の誤請求などが見受けられた。調査結果から、マイナンバーカードの利便性と課題が明らかになり、国民の理解と信頼を築く重要性が強調されている。

キーワード：マイナンバーカード・マイナ保険証・資格確認書

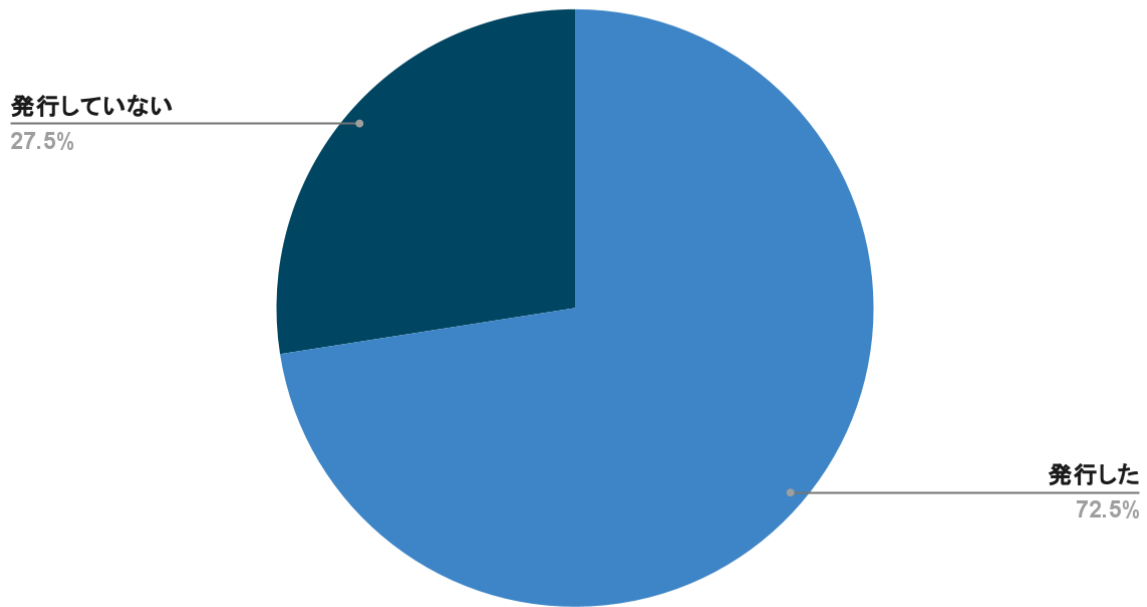
I. はじめに 政府は、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、行政手続きの効率化や国民サービスの向上を目指す目的として2024年の秋から原則的に紙の保険証を廃止する事を決定した。プライバシー、セキュリティ、運用面の懸念からマイナンバーカードと健康保険証の一体化に対する不安の声が連日、メディアで報道されている。

II. 目的 マイナンバーカードと健康保険証の一体化、通称マイナ保険証に対し知識を深め、当院に来院される患者さんのマイナンバーカードの発行状況と健康保険証のひも付け状態を把握し2024年秋からの原則紙の保険証廃止に対し、円滑にレセプト請求を移行できるか調べることにした。

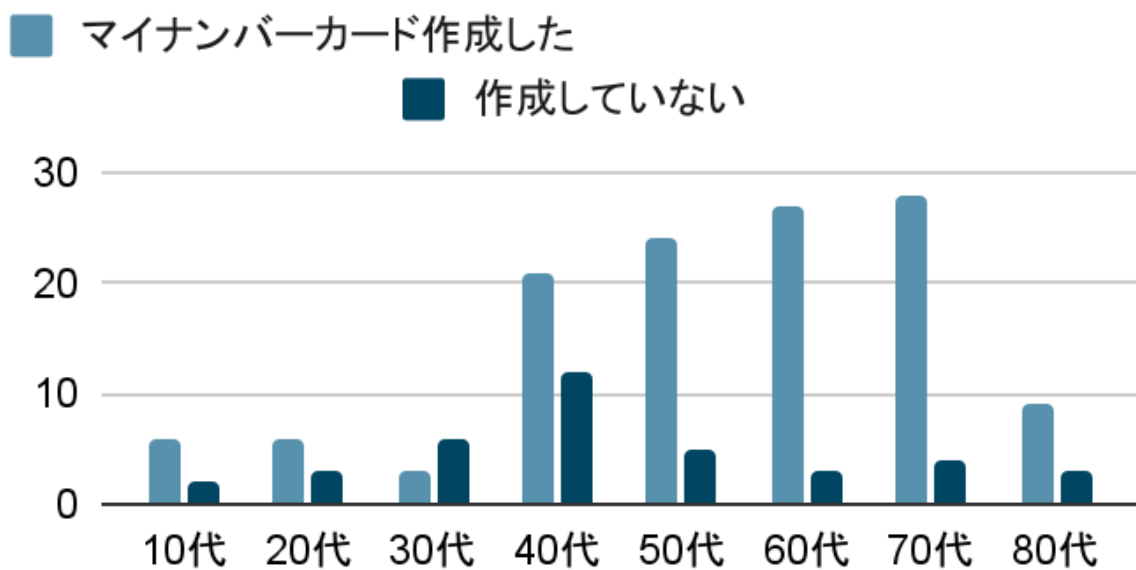
III. 方法 調査項目は、以下の3つである。

1. マイナンバーカードの取得状況
2. 健康保険証との紐づけ状況
3. マイナンバーカードと健康保険証の一体化に対する患者さんの見解や意見

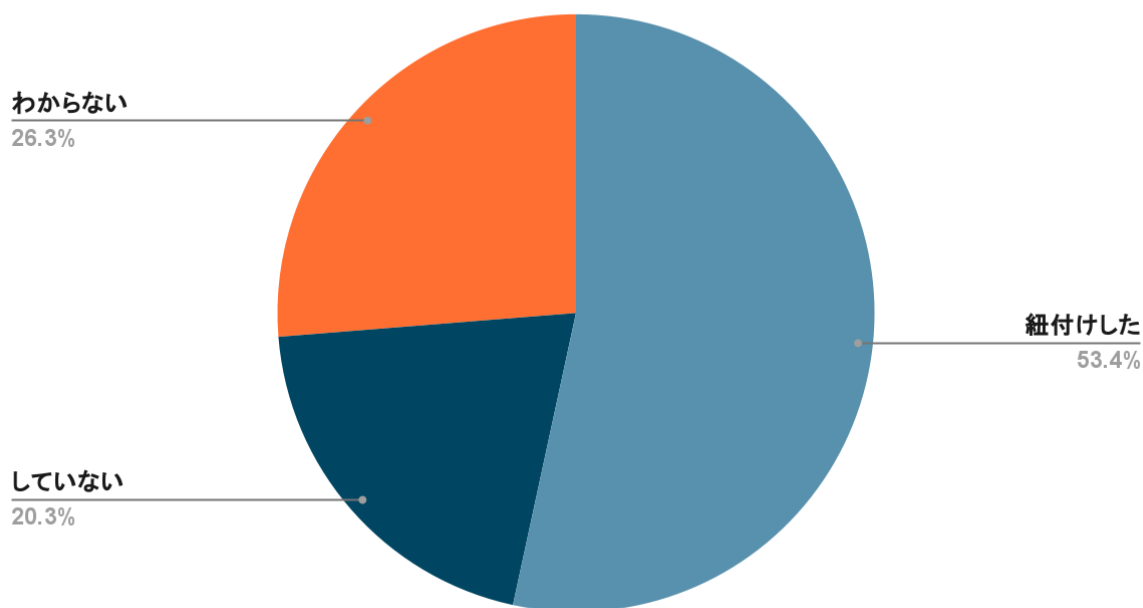
マイナンバーカードの発行状況



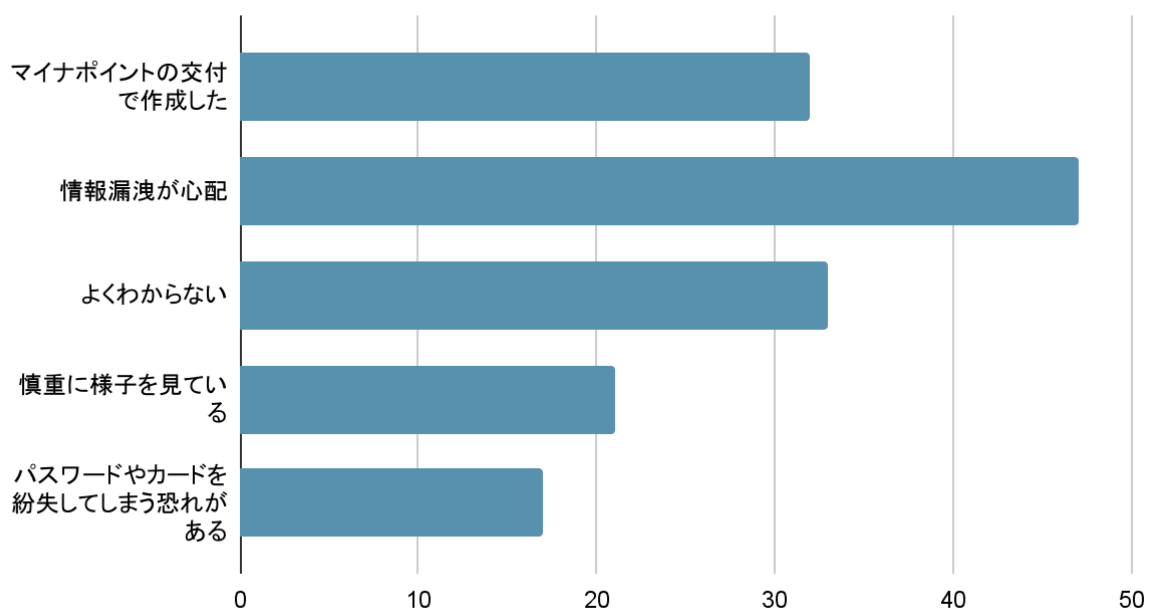
年代別マイナンバーカード交付状況



マイナ保険証の紐づけ状況



マイナ保険証に対する見解や意見



IV. 結果 調査の結果、以下のことがわかった。

マイナンバーカードを取得している患者さんは72.5%であり、取得していない患者さんは27.5%であった。

マイナンバーカードを取得している患者さんのうち、保険証と紐づけしている患者さんは53.4%であり、紐づけしていない患者さんは20.3%であった。紐づいているかわからないが20.3%であった。

マイナンバーカードと健康保険証の一体化に対する患者さんの意見や見解は以下のとおりである。

マイナポイントが交付されるということで、マイナンバーカードを作成し、マイナ保険証と紐づけた。

ニュースの報道で他人の情報と紐づいてしまう懸念がある。

マイナ保険証の情報を読み取ることができず、10割負担で請求されてしまう。

パスワードを忘れてしまったり、カードを紛失してしまう恐れがある。

個人情報の流出やプライバシーの保護が心配だ。

マイナンバーカードやマイナ保険証についてよくわからない。

V. 考察 マイナンバーカードと健康保険証の一体化には、メリットがある反面、デメリットや課題があることがわかった。マイナ保険証に対する国民の理解と信頼の構築が求められる。また、マイナンバーカードやマイナ保険証がなくても資格確認書が交付されるので、各施術所で受付窓口の手続きにそれぞれの対応をすることになる。

VI. 結語 マイナンバーカードと健康保険証の一体化は、利便性の向上や行政の効率化につながる一方で、個人情報の流出やプライバシーの保護などの課題もある。マイナンバーカードとマイナ保険証について、国民が理解し、信頼して利用できるようにすることが重要である。

文献

1) マイナンバー制度とマイナンバーカード 総務省 https://www.soumu.go.jp/kojin_bango_card/03.html

2) マイナンバーカードの健康保険証利用について 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08277.html

3) 何が問題か マイナンバーカードで健康保険証廃止 黒田充

4) マイナ保険証 資格確認書 有効期間 上限5年に 政府案まとまる
NHK NEWS WEB
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230803/k10014151851000.html>

- 5) マイナポータル デジタル庁
<https://myna.go.jp/>